

2007年度の環境設備投資額は炭酸ガス排出量削減に向けたボイラーの老朽化更新（重油⇒ガス）により増加。又、効果は「改善プロジェクト」の省エネ・収率改善活動の効果です。

	2006年度	2007年度
環境設備投資額	1,850	31,319
環境維持コスト	65,594	57,539
環境保全効果に伴う経済効果	12,641	27,598

5. 環境パフォーマンス（環境保全への取組みと改善状況）

（1）水質汚濁への対応

①井戸水の利用状況

当工場は2本の深井戸より汲み上げ、食品衛生法で認可されている「飲用適の水」として配合水、洗浄水、またボイラー用水・機器の冷却水として使用しています。（12万m³/年間）井戸の管理については「東播磨地下水利用対策協議会」に加盟し活動しております。

②排水の水域への排出

当工場の生産活動に伴う生産工程からの排水（1日220m³/day以下）は、2007年9月より加古川流域下水道に接続放流開始。接続した現在も、加古川流域下水道に流す前に排水処理設備で一次処理をした後（規制値以下のクリーンな水である事を確認後）放流しております。

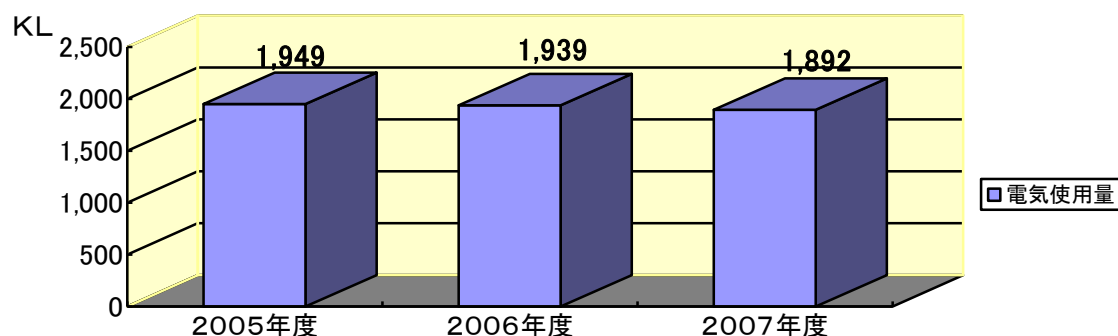
（2）大気汚染への対応

当工場は2007年5月に生産ラインの殺菌等に使用する蒸気を発生させる為に、使用していた小型貫流ボイラー4基（6トン：燃料はA重油）を炭酸ガス排出量削減とボイラー設備の老朽化対策により、エネルギー効率の高い機器導入（燃料転換：A重油 → 都市ガス）をしました。

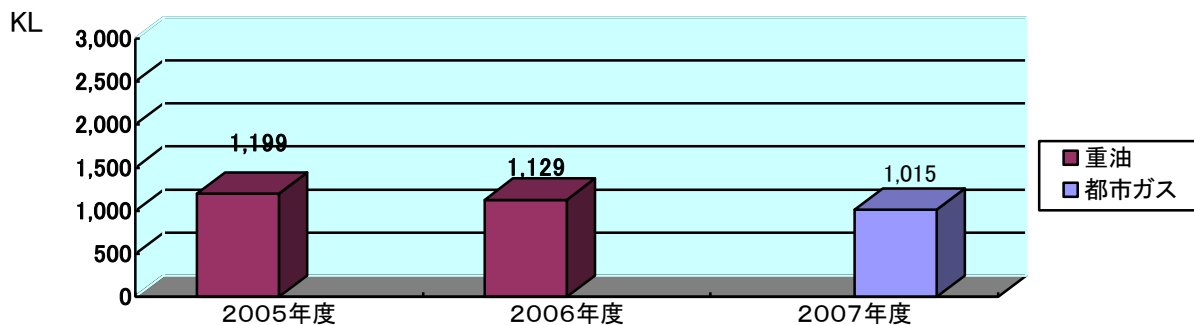
又、電気は特別高圧電力を引いており、「第1種エネルギー指定工場」になっております。工場方針にのっとり以下の項目を取り決め、「改善プロジェクト2006」の各部会活動で改善への取組みを展開しております。

- ① エネルギーの効率の高い機器の導入。（省エネ部会活動）
- ② 生産の集中化によるエネルギー効率の向上。（収率改善部会活動）
- ③ 蒸気・冷却水漏れ等、ロスの削減。（省エネ部会活動）
- ④ 照明はこまめに消灯（常時不要場所、昼休み休憩時等）する。（省エネ部会活動）
- ⑤ 冷暖房設定温度は夏季28℃以上、冬期20℃以下にする。（省エネ部会活動）
- ⑥ 駐車中の自動車はエンジンを停止する。又、アイドリングは禁止する。

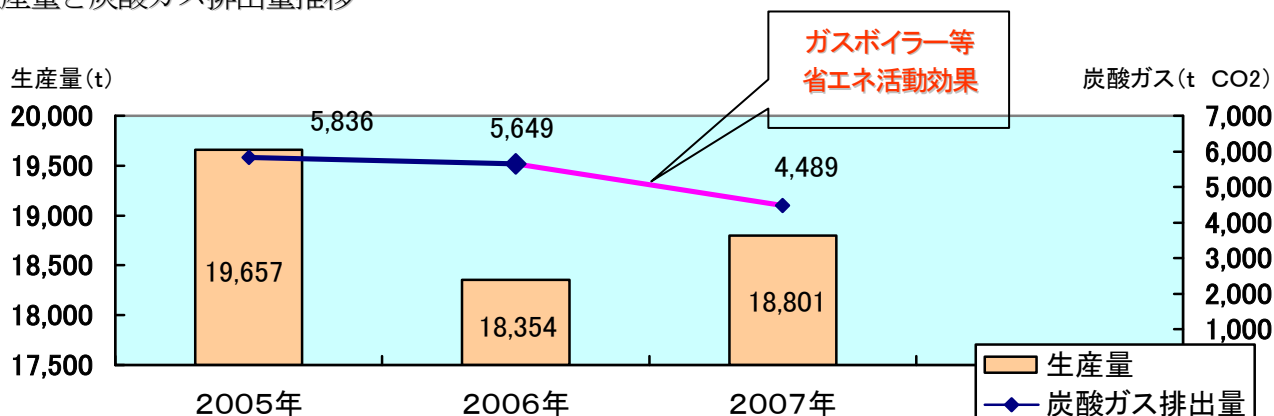
電気使用量（単位：KL） 原油換算



重油・都市ガス使用量（単位：KL） 原油換算



生産量と炭酸ガス排出量推移

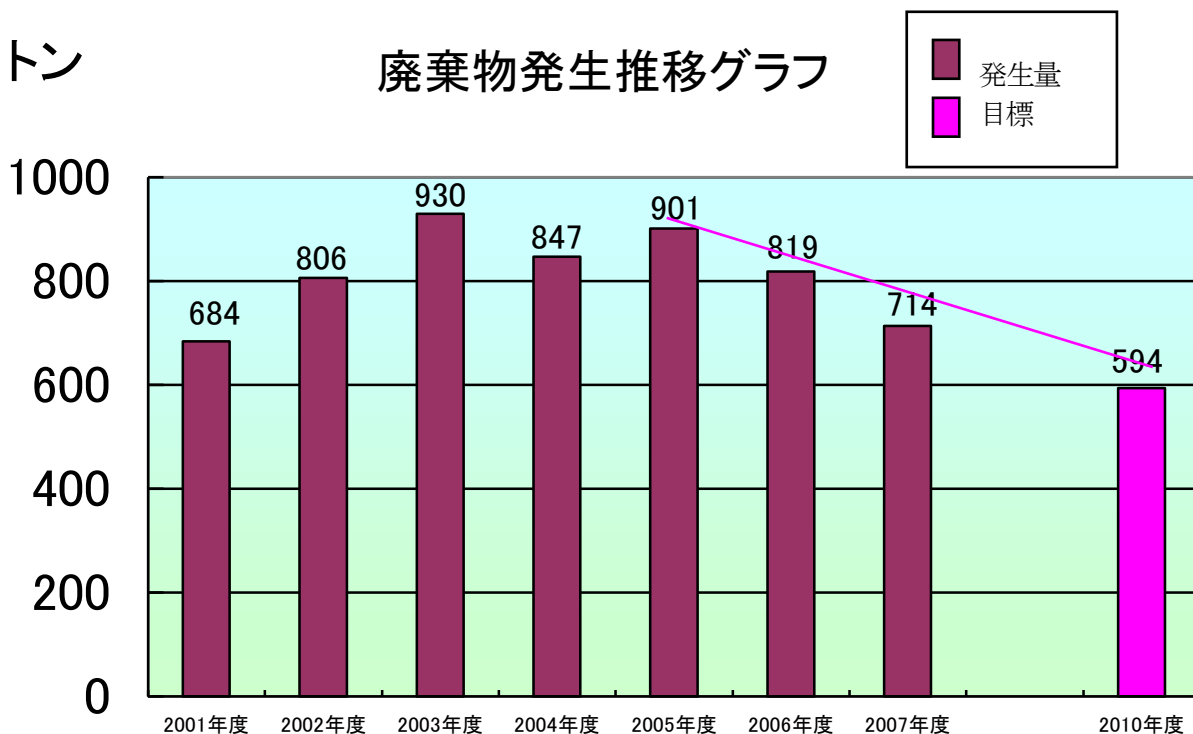


(3) 廃棄物への対応

当工場の生産工程から各種の廃棄物が発生します。2007年度は、食品安全（ISO22000）マネジメントシステム運用の効果と明石工場が取組んでいる「改善プロジェクト2006」活動の効率的な生産調整・製造方法によりライン洗浄を減らす等、様々な改善（工夫）により、対前年1%削減を目標に対して結果は、対前年12%と大幅な削減が出来ました。今後も、ISO22000確実な運用と「改善プロジェクト2006」活動、更に5R（リフューズ(買わない)、リユース(何度も使う)、リペアー(修理する)、リデュース(減量)、リサイクル(再生)）推進により、2010年の目標達成に向けて更なる努力を行っております。

トン

廃棄物発生推移グラフ



工場内再資源化ステーションでの分別保管風景



(4) 指定化学物質の排出（PRTR法）

当工場のPRTR法「特定化学物質の環境への排出量把握及び管理の推進に関する法律」に該当する物質は冷凍設備の冷媒（フロン22）のみで、排出もほとんどありません。冷凍設備の保守管理の徹底を実施しております。

(5) グリーン購入

当工場のグリーン購入は事務用品及び備品を中心に進めており、2007年度は、294品目（種類）中、202品目のエコ製品を購入し、集計で81.2%の達成率となっております。残りの品目についても順次見直しを進めていきます。

又、従業員の日常のエコ活動として以下を取り決め行動しております。

- ① 使用済みの封筒は社内メール等で再利用する。
- ② コピー用紙は再生紙を購入し、両面印刷を原則として枚数の削減をする。

6. 安全・衛生活動

(1) 活動成果

当工場は2003年度に「OHSAS18001」の適合を取得し、リスクアセスメントの抽出と改善を実施して来ております。

又、当工場は「真の原因追求と活かした対策の構築」を合言葉に災害をゼロにする為、徹底的な職場討議と対策を実施。教育、点検、パトロール等も実施し、再発防止に努めております。



(始業前の腰痛防止体操)



(OHSAS18001審査受診風景)